

1 取組名称

共同体験活動とその効果のルーブリック自己評価

2 取組対象科目

環境化学 (K0104)

3 取組実施代表者名

都市環境学部環境応用化学科・准教授・加藤 俊吾

4 取組年度期間

2019～2021 年度 (3 年間) ※2020 年度 (コロナ禍により未実施)

5 取組の概要

野外の体験的活動を実施しするのみならず、非参加学生とも共有し、双方に活発な議論と思考を促すことで学修効果を高め、アクティブ・ラーニングの実践モデルを示す。各自の学習成果の発表機会を授業内で与えるとともに、学習成果を自己評価するルーブリックを通じて、学習成果の可視化を図る。

6 事後評価の総合評定

3. 9 ※審査会 (教育担当副学長及び部局長構成) の審査員が行った 5 段階評価 (5～1) の平均点

7 事後評価に関する審査会での主な意見

- 事前学習、野外研修、ルーブリックを用いた自己評価等がバランスよく組み合わせられた良質なプログラムであると評価できる。参加者の感想からも充実したプログラムとして成立していたことが窺えるほか、無理に遠くに行かずとも、ごく身近な場所における学習を通じて学生に「気づき」を与えられることができたのは好ましい成果である。
- 専門教育科目の課外活動的な取り組みであるが、野外実習体験の導入と、全方位画像を交えた野外実習参加者による正課内フィードバックが、非参加者の自己評価の向上にもつながったことは、評価できる。
- コロナ禍の収束後であっても、宿泊を伴う演習への参加は学生にとってハードルが高いとも考えられるため、支援期間終了後の取組や学内外への波及に向けた取組を進めるに当たっては、慎重な検討を要するよう思われる。